

人では捉えられなかった
ヒータ設備の劣化傾向を見える化



ネットワーク接続で事務所からでもデータ把握

現場と遠隔地で同じ状態を見ることが可能になり、現場へ定期的に足を運ぶ必要がありません。現場と遠隔地を連動させた最適な保全手法の確立も可能になります。



ヒータ断線による突発的な設備停止やムダなコストを削減したい

高温で使用されるヒータ設備では、突然のヒータ断線に伴う設備停止でダウンタイムやワークの廃棄コストが大きくなりやすいという課題があります。こうした設備の突発停止を防ぐためにはヒータの監視が必要ですが、監視を行う手段がないため、人手や部品コストを多くかけて定期保全を行っているのが現実ではないでしょうか。

課題 ヒータ断線による突発的な設備停止やムダなコストを削減したい



生産を復旧するまでの
時間が非常に長くなる



ワークが品質不良となり
大きな廃棄コストがかかる



定期保全をするために
部品コストや手間がかかる

解決策 ヒータ設備の事後保全、定期保全から状態監視による予知保全へ

ヒータ状態監視機器K7TMなら、金属抵抗ヒータの抵抗値を制御方式やヒータの温度特性に関わらず細かく、適切に定期的に計測し、劣化によるヒータ抵抗の変化を時系列に監視することが可能になります。これにより事後保全や定期保全が当たり前だったヒータ設備で、ヒータ抵抗の経年変化を監視しながらの保全が実現できます。